

令和5年度の業績

事業の展望と課題

当金庫の営業エリアの中心である横浜市は、令和6年1月1日時点の推計人口が前年同期比375人減少しました。減少ペースは緩やかになりましたが、これで3年連続の減少となり、人口減少社会を迎えています。また、長期にわたって続いている低金利環境も、日本銀行の金融政策の見直しにより、変化していくことが見込まれます。

こうした中、当金庫は、地元事業者が抱える経営課題に向き合い、従来のバンキングニーズにとどまらず、中小企業の技術力や経営資源を将来に継続させ、地域の雇用確保などに貢献していくため「事業承継・M&A支援」を重点分野として本業支援に取り組むほか、社会的な要請が高まっている気候変動対応などのSDGsに関する取組支援を強化することにより、お客さまにより多くの付加価値を提供していきます。



財務諸表

●貸借対照表		(単位：百万円)	
科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金	18,254	預金積金	2,050,966
預け金	462,387	コールマネー	454
買入金銭債権	15	その他負債	7,524
金銭の信託	4,730	賞与引当金	879
商品有価証券	389	役員賞与引当金	30
有価証券	471,445	退職給付引当金	10,766
貸出金	1,177,241	役員退職慰労引当金	383
外国為替	2,028	預金払戻引当金	53
その他資産	14,213	偶発損失引当金	1,080
有形固定資産	21,323	再評価に係る繰延税金負債	1,105
無形固定資産	2,436	債務保証	1,717
繰延税金資産	4,252	負債の部合計	2,074,961
債務保証見返	1,717	(純資産の部)	
貸倒引当金	△3,568	出資金	1,658
(うち個別貸倒引当金)	△2,315	利益剰余金	101,981
資産の部合計	2,176,866	処分未済持分	△0
		会員勘定合計	103,639
		その他有価証券評価差額金	△542
		土地再評価差額金	△1,190
		評価・換算差額等合計	△1,733
		純資産の部合計	101,905
		負債及び純資産の部合計	2,176,866

●損益計算書		(単位：百万円)	
科目	金額	科目	金額
経常収益	28,141	経常収益	28,141
資金運用収益	22,059	資金運用収益	22,059
役務取引等収益	3,572	役務取引等収益	3,572
その他業務収益	388	その他業務収益	388
その他経常収益	2,121	その他経常収益	2,121
経常費用	23,332	経常費用	23,332
資金調達費用	271	資金調達費用	271
役務取引等費用	1,463	役務取引等費用	1,463
その他業務費用	1,943	その他業務費用	1,943
経費	18,985	経費	18,985
その他経常費用	666	その他経常費用	666
経常利益	4,809	経常利益	4,809
特別利益	0	特別利益	0
特別損失	56	特別損失	56
税引前当期純利益	4,753	税引前当期純利益	4,753
法人税、住民税及び事業税	1,196	法人税、住民税及び事業税	1,196
法人税等調整額	△66	法人税等調整額	△66
法人税等合計	1,130	法人税等合計	1,130
当期純利益	3,622	当期純利益	3,622
繰越金（当期首残高）	1,034	繰越金（当期首残高）	1,034
当期末処分剰余金	4,656	当期末処分剰余金	4,656

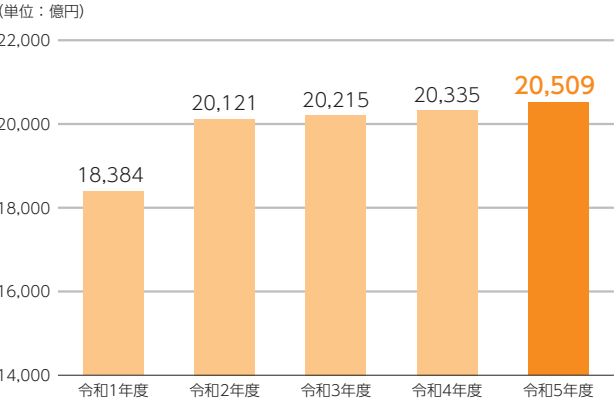
主な経営指標の推移

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	(単位)
経常収益	25,550,533	26,441,805	25,649,672	26,547,361	28,141,689	千円
経常利益	2,236,293	3,301,635	4,004,441	3,010,045	4,809,220	千円
当期純利益	1,814,894	2,542,162	2,886,871	2,102,011	3,622,450	千円
出資総額	1,797	1,772	1,743	1,702	1,658	百万円
出資者数	73,082	73,463	72,777	71,434	70,568	人
出資総口数	3,481,663	3,417,398	3,458,968	3,387,729	3,314,548	口
純資産額	97,020	102,934	102,058	95,799	101,905	百万円
総資産額	1,965,195	2,299,672	2,341,579	2,171,724	2,176,866	百万円
預金積金残高	1,838,404	2,012,135	2,021,555	2,033,569	2,050,966	百万円
貸出金残高	1,033,052	1,137,854	1,104,609	1,146,383	1,177,241	百万円
有価証券残高	488,597	491,974	489,491	456,701	471,445	百万円
単体自己資本比率	9.72	10.27	10.57	10.30	10.35	%
職員数	1,289	1,269	1,258	1,220	1,213	人

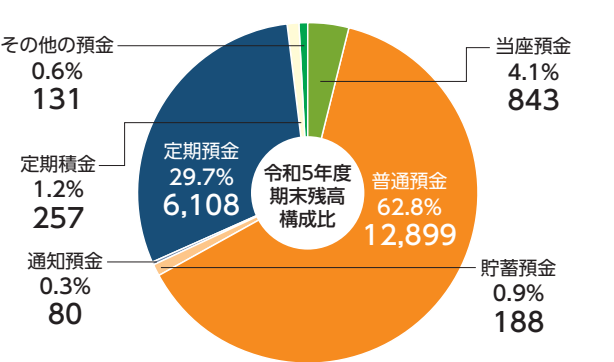
預金積金の状況 ⇒ 期末残高 2兆509億円

期末残高は前年度比173億円増加の2兆509億円となりました。

●預金積金残高の推移



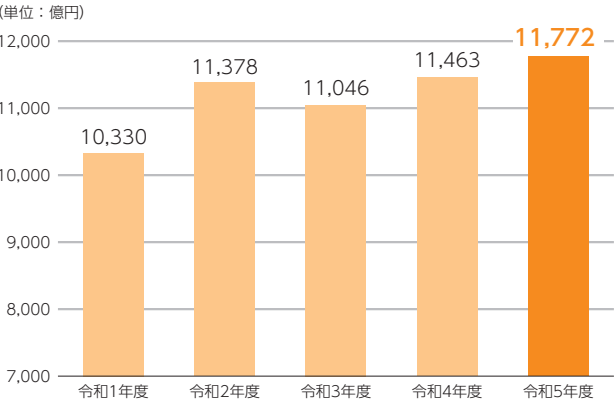
●預金積金科目別残高



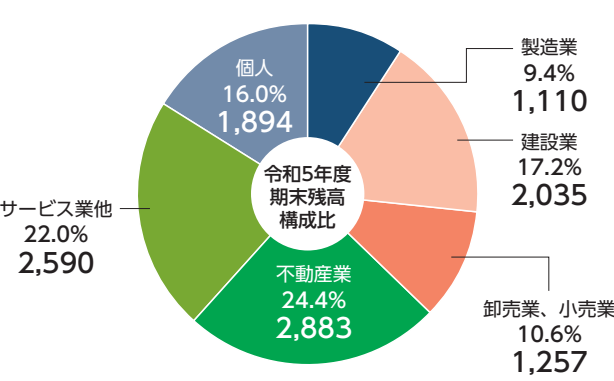
貸出金の状況 ⇒ 期末残高 1兆1,772億円

期末残高は前年度比308億円増加の1兆1,772億円となりました。特定の業種に偏ることなく、バランスのよい貸出を心掛けています。

●貸出金残高の推移



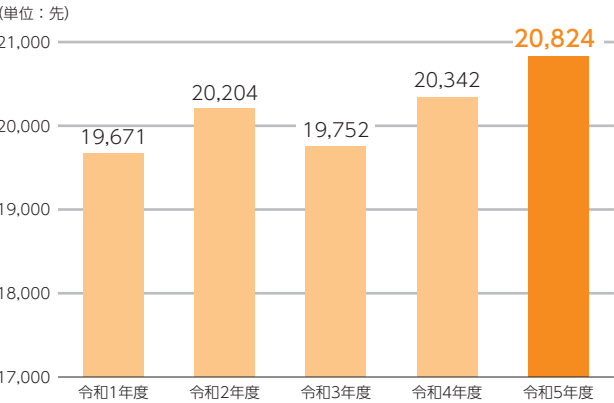
●業種別貸出金残高



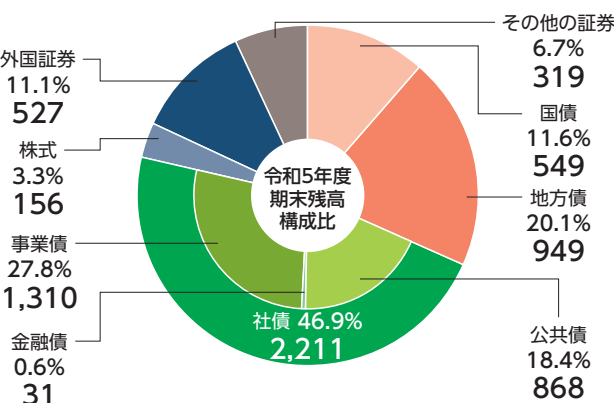
有価証券運用の状況 ⇒ 期末残高 4,714億円

国債、地方債、格付の高い社債等を主な投資対象として、安全性を重視した有価証券運用を行っています。

●法人・事業者向け貸出先数の推移



●種類別有価証券残高



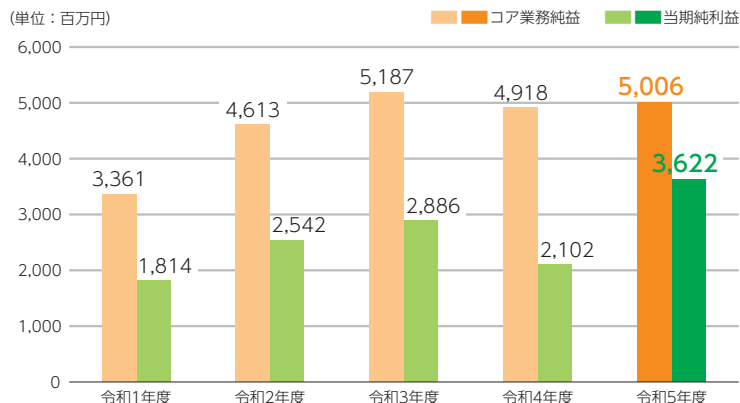
令和5年度の業績

損益の状況 ⇒ 当期純利益 36億円

コア業務純益^(※)は、ほぼ横這いの50億円となりました（投信解約損益除くコア業務純益も同額の50億円）。当期純利益は貸出金利息収入の増加等もあり15億円増加の36億円となっています。

※業務純益から一時的な変動要因を除いたもので、信用金庫の本来の業務活動による収益力を表しています。

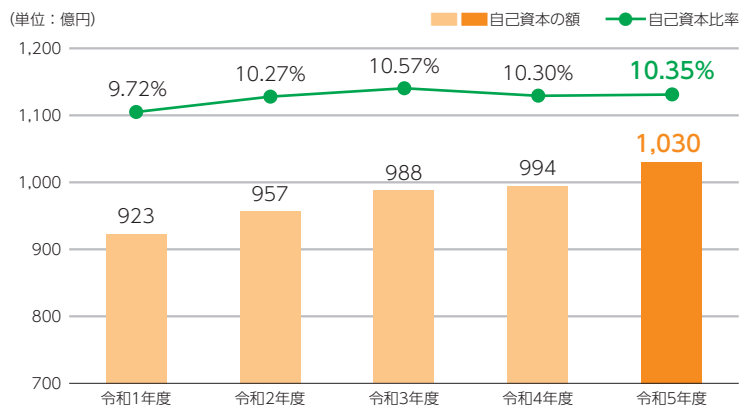
コア業務純益・当期純利益の推移



自己資本の状況 ⇒ 自己資本比率 10.35%

自己資本の額は利益による積み上げなどにより前年度比36億円増加の1,030億円となりました。これにより、自己資本比率は0.05ポイント上昇し10.35%となりました。引き続き、国内基準（4%）を大きく上回る健全性を維持しています。

自己資本の額・自己資本比率の推移



不良債権の状況

不良債権額は前年度比63億円増加の658億円、不良債権比率は0.40ポイント上昇し5.57%となりました。なお、不良債権のうち、97.15%は担保や保証、貸倒引当金により保全されています。また、未保全部分についても、自己資本の積み上げがあり、不良債権に対する備えは万全です。

不良債権額・不良債権比率の推移

